

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	古賀 貴子		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	1～2年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素の生体内での生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関係、調理に伴う栄養素の物理化学的変化などについて、未だ不明の点も少なくない。本演習ではこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法などに関連するテーマについて文献を精読し、その内容に関する議論を行って文献に対する批判・検討能力を身につける。さらに統計学的手法や解析手法を自ら修得する。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	栄養科学領域の研究に関心を持ち、その発展に貢献する意欲・態度を身につけている。			授業態度・授業への参加	10%		
思考・判断	栄養科学領域の研究論文及びその他の情報などを科学的に分析し、その要点や問題点を指摘できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
技能・表現	栄養科学領域の情報・資料などを分析・理解するための統計学的手法や解析手法を使用できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
知識・理解	栄養科学の基本概念とそれに基づく栄養素と調理および食生活を理解し、説明できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内レポート（課題レポート）、受講者の発表・討論、授業態度・授業への参加について総合的に評価する。提出したレポートにはコメント等を記入し返却しフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>関連領域の文献を精読し、その内容を発表する。質疑応答、討論を通じて理解を深める。情報収集の方法や実験方法、実験結果のまとめ方等についても演習する。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：必要に応じて、資料を配布する。 参考書：適宜紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、「特別研究」の質を向上させるために行うものであり、受講者の自主性および積極性が求められる。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	林 俊介		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素の生体内での生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関係、調理に伴う栄養素の物理化学的变化などについて、未だ不明の点も少なくない。本演習ではこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法などに関連するテーマについて文献を精読し、その内容に関する議論を行って文献に対する批判・検討能力を身につける。さらに統計学的手法や解析手法を自ら修得する。</p> <p>本演習では、臨床栄養分野における病態栄養や栄養管理、栄養教育に関する内容について、実臨床の立場から必要な知識、技能の習得を目指す。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	栄養科学領域の研究に関心を持ち、その発展に貢献する意欲・態度を身につけている。			授業態度・授業への参加	10%		
思考・判断	栄養科学領域の研究論文及びその他の情報などを科学的に分析し、その要点や問題点を指摘できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
技能・表現	栄養科学領域の情報・資料などを分析・理解するための統計学的手法や解析手法を使用できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
知識・理解	栄養科学の基本概念とそれに基づく栄養素と調理および食生活を理解し、説明できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内レポート（課題レポート）、受講者の発表・討論、授業態度・授業への参加について総合的に評価する。提出したレポートにはコメント等を記入し返却しフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>関連領域の文献を精読し、その内容をまとめ発表する。質疑応答、討論を通じて理解を深める。 情報収集の方法や実験方法、実験結果のまとめ方等についても演習する。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。 参考書：適宜紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、「特別研究」の質を向上させるために行うものであり、受講者の自主性および積極性が求められる。 実社会で起こっている様々な出来事に対し、医療・保健・栄養の分野の立場から興味を持って接して欲しい。その様な積み重ねが臨床現場で様々な職種との連携や対象者へのアプローチについて、実践能力を高めることにつながります。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	松尾 嘉代子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素が生体内で果たす生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関わり、調理に伴う栄養素の物理化学的変化などについて多くの論文が発表されているが、未解明の点も多く今後の課題となっている。そこでこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法など、関連するテーマの中から1つを選び、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計的手法や解析手法を自ら修得しながら、「修士論文」の質を向上させるように指導を行う。</p> <p>なお、本演習ではライフステージに応じた栄養素の特徴に関する情報整理、栄養管理に必要な能力の養成などを目指す。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲・態度	これまでに学修した知識や技術を応用し、設定テーマについてしっかりと知識を蓄積し、論理的に意欲的に展開することができる。			授業態度・授業への参加度	10%		
思考・判断	設定したテーマについて調べ、研究をさらに発展させるべき分野を見極めたり、これまで十分に研究されていない新たな知見を得たり、課題を発見したりすることができる。			授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表(プレゼン)	5% 10% 10%		
技能・表現	研究の仮説、方法など、研究の枠組みを検討し、具体的にテーマの掘り下げやテーマに適した研究方法の検討、さらに調査・実験の計画を立案することができる。			授業外レポート 受講者の発表(プレゼン)	10% 10%		
知識・理解	設定テーマの実験・調査等を通して修得した科目内容を理解すると共に、研究の意義、手法、解析方法等の専門的知識を身につける。			授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表(プレゼン) 演習	5% 10% 10% 5%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度・参加度 (10%)、プレゼン (40%)、授業内レポート (10%)、授業外レポート (30%)、演習 (10%) の割合で評価する。なお、提出されたレポートは授業、ポートフォリオ等でフィードバックを行うので確認すること。 ・プレゼンテーションは、レポートの概要をまとめテーマに合った内容であったかを評価する。 ・授業内・外のレポートは、内容について事前に検討を行いその結果をまとめたもので評価する。 ・演習は、応用栄養学に関する実務的な内容を評価分析する等の処理能力で評価する。 ・提出されたレポート、研究への取り組み態度、プレゼンテーション内容など、その完成度を総合的に評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養学や栄養教育に関する文献を講読しながら演習する。 ・研究に関わる成果のまとめ(レポート作成)、プレゼンテーションなど実践的な演習を行う。 ・展開は2年間にわたって行うが、受講生の研究内容や研究の進捗状況に合わせて適宜演習を進める。また、主体的に実施されることから、研究の進捗状況によっては夏季・冬季・春季休暇期間中も実施する場合がある。 							
教科書・参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・特に定めるものはないが、必要に応じ指示・紹介する。 							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習の中で得られるデータの集計や解析、レポート作成などを通じ洞察能力などを修得するとともに、プレゼンテーションの方法も含めいろいろな表現能力も併せて修得してもらいたい。 ・教員の指導のもと、自分の力で進めてもらいたい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく。
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる。
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく。
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する。
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	藤井 俊輔		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	1～2年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素が生体内で果たす生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関わりについて多くの論文が発表されているが、生物学的、生理的な観点において、その現象の意義が未解明の点も多く、今後の課題となっている。また、ヒトは食物から栄養素のみを摂取しているのではなく、非栄養素成分とされる種々の天然化合物も併せて食事から摂取しており、それらが生体に対して機能する役割も重要であることが認識されている。本演習ではこれらの点を踏まえ、食品そのものと、食品を構成する化合物に関する文献を中心に、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法などに関連する文献を精読し、その内容に関する議論を行って文献に対する批判・検討能力を身につける。さらに統計学的手法や解析手法を自ら修得する。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	食品そのものや、食品を構成する種々の化合物について、自ら情報を取捨選択し、正しい情報収集を行うことができる。			課題レポート 受講態度	5% 10%		
思考・判断	自らが設定した課題について情報収集を行い、その情報を整理し、科学的かつ理論的な分析によって、その要点や問題点の指摘ができる。			課題への取組 課題レポート	10% 20%		
技能・表現	研究領域の現状を把握し、その問題点を抽出することができる。また、その問題点を解決するための仮説を立て、解決に向けた手法を実行し、その内容をプレゼンすることができる。			課題への取組 受講者のプレゼン	5% 20%		
知識・理解	研究領域の理解に必要な知識を身につけ、知見の蓄積によって得られた内容を理路整然と説明できる。			課題への取組 受講者のプレゼン	10% 20%		
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>本演習の評価は受講態度：10%、課題への取り組み：25%、課題レポート：25%、受講者のプレゼン：40%の割合とし、課題解決に向けた活動や課題への取り組み状況、研究活動に対する姿勢などについても総合的に評価を行う。提出されたレポートは、担当教員が確認後、直接返却または、ポートフォリオを用いてフィードバックを行うので直ちに訂正箇所の確認、加筆、修正を行うこと。</p>							
授業の概要							
<p>食品学、食品機能学、天然物化学に関する論文または、文献を精読し演習を実施する。また、研究領域の知見を自ら情報を収集し、その内容についてプレゼンテーションを行う。受講者の研究の進捗状況、取り組み状況によっても適宜変更するが、特に時期を定めず、その進捗状況の中間報告を求める場合がある。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜、資料の配付や文献の紹介をする。 参考書：適宜、紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、特別研究および、修士論文の質向上のために実施される。したがって、受講者の自主性によってその成果は大きく左右されるため、積極的な態度での受講を期待する。また、研究活動におけるプレゼンテーション能力の獲得は必須のものであるため、プレゼンテーション能力の修得についても積極的に身につけてほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ